



日本・ASEAN特別首脳会議

平成15年12月
外務省アジア大洋州局



日ASEAN関係の歩み

- 1967年：ASEAN設立
- 1977年：第一回日ASEAN首脳会議（福田ドクトリン：「心と心のふれあい」）
- 1997年：アジア経済危機
（日本は800億ドルの支援実施を表明）
第三回日ASEAN首脳会議（以後毎年開催）
- 2002年：小泉総理ASEAN諸国歴訪
（シンガポールスピーチ：「共に歩み共に進む」
率直なパートナー、5つのイニシアティブ。）

ASEANの重要性

ポイント1

政治・安全保障面で重要！

- 5億の人口、成長著しい経済を有するASEANの安定は東アジアの安定に直結する。
- ASEANは日本にとり重要なシーレーンに位置する。

ポイント2

日本と深い経済関係！

- 日本にとりアメリカに次ぐ貿易相手。
- 日本の重要な投資先(東アジア最大)。

ポイント3

社会・文化面での強い絆！

- 「心と心のふれあい。」
- 30年以上にわたる信頼関係。
- 日本人にとりアメリカに次ぐ旅行先。

ASEANの重要性

ポイント2

- ASEANにとり日本は米国と並ぶ最大の貿易相手 (2001年 米国21.0%、日本20.2%)。
- 日本にとりASEANは米国に次ぐ貿易相手 (2002年 米国23.4%、ASEAN14.2%(13兆4千億円)。
- ASEANにとり日本は最大の域外投資国 (1995年-2001年 累計 日本21.6%:495億ドル、EU16.8%、1951年からの累積で日本は11兆2373億円)。
- ASEANにとり日本は最大の二国間ODA供与国 (2001年 日本:60%、米国8.2%)。
- 日本のODAの28.3%がASEAN向け(2001年、21億ドル)。
- ASEANにとり日本は域外最大の旅行者数 (2002年 日本:15%(370万人)、中国11%、米国8%)

会議の概要

- 2003年12月11, 12日に東京(迎賓館)において開催。
- 小泉総理及びASEAN(東南アジア諸国連合)の全ての首脳が出席。
- ASEANの全首脳が域外で初めて一堂に会する歴史的な首脳会議。
- 日本・ASEAN交流年の締めくくりを飾る。

会議の日程

- 11日(木)
 - 午前 日ASEAN外相会議(帝国ホテル)
 - 午後 特別首脳会議全体会合(迎賓館)
- 12日(金)
 - 午前 特別首脳会議全体会合(迎賓館)
 - 午後 共同記者会見(赤坂プリンスホテル)
 - 夜 交流年レセプション、「虹の舞」公演
(東京国際フォーラム)
- 10カ国の全首脳、外相との間で、各々二国間首脳会談、二国間外相会談。

会議の成果

➤ 日ASEAN東京宣言

- 日ASEANは**政治・安保パートナーシップ**の強化・拡大、特別の関係の拡充で一致
- 「**法の支配**」、「**人権の擁護と促進**」、「**公正で民主的環境**」、「**アジアの伝統・価値の尊重**」など**共通の原則・価値**を確認
- **東アジア・コミュニティ**の創設に向けての協力を確認

➤ 行動計画

- 人材育成で**今後3年間で15億ドル、4万人**の交流
- **メコン地域開発**(今後3年間で15億ドル)等、**統合強化**への支援

➤ 経済連携

- **タイ、フィリピン、マレーシア**との**二国間経済連携協定の正式交渉開始**について合意

➤ 東南アジア友好協力条約(TAC)

- **締結の意図を正式に表明**し友好協力関係へのコミットメント

その他主な会談内容

(特別首脳会議と二国間会談での共通の話題)

- 日ASEAN関係全般: 各国よりこれまでの日本の支援に対する謝意が表明された他、特別首脳会議に対する高い評価が示された。
- イラク情勢: イラクの人道復興支援のための自衛隊派遣の方針について各国に説明を行い、ASEAN側から、イラクの復興を支援するとの我が国の姿勢に対する理解が得られた。
- 北朝鮮情勢: 核、ミサイル、拉致問題等の諸懸案を包括的に解決して日朝国交正常化を図るとの我が国の考えを説明し、ASEAN各国首脳からの理解が得られ、朝鮮半島問題の平和的解決は、ASEAN諸国の関心事でもある旨の見解が表明された。

二国間首脳会談の概要

その1

(1) インドネシア (10日)

- 総理より、同国の改革努力を評価するとともに、平成15年度の新規円借款案件として1,000億円を超える供与を決定した旨述べた。
- 外相会談において、10月にASEANが合意したバリ・コンコードへの支持を表明。また、第三国研修等の南々協力のためのパートナーシップ・プログラムに関する枠組み文書に署名。

(2) ベトナム (10日)

- 首脳会談時に双方の官民代表から「日越共同イニシアティブ」最終報告書を提出。越側より、日本からの投資、経済協力への期待が示された。
- 越側より、来年1月1日から日本人短期訪越者に査証を免除する旨表明。
- 外相会談においては、越のASEM首脳会合主催(04年)に関する協力、対アフリカ協力等を確認した。

(3) カンボジア (10日)

- カンボジア新政権の早期樹立を望む旨述べるとともに、クメール・ルージュ裁判の早期実現への期待と、人的・財政的支援の意向を表明。
- 先方より、日本の経済協力への謝意と引き続いての支援に期待が表明された。

(4) マレーシア (11日)

- アブドゥラ首相より、東方政策の意義について改めて確認。
- マレーシア日本国際工科大学(MJIUT)設立に向け、引き続き協力を確認。先方より、本件大学をASEAN人材育成の拠点にしたいとの意向が示された。

二国間首脳会談の概要

その2

(5)シンガポール(11日)

- 総理より、日シンガポール経済連携協定(JSEPA)の成果は他国との経済連携を進める上でも重要と評価。また、閣僚レベル(川口外相、中川経済産業相出席)で、成果と展望につき意見交換を行った。
- 総理より、ナザン大統領の来年度中の訪日を招請。

(6)タイ(11日)

- 両首脳がパートナーとして地域・国際の諸課題に取り組む旨を確認。両首脳の立ち会いの下、外相間で「日タイ・パートナーシップ・プログラム・フェーズ2」に署名。
- 総理より、タクシン首相の来年度の訪日を招請。
- 外相会談では、ミャンマー問題やメコン地域開発等に関する協力を協議。

(7)ブルネイ(11日)

- 今次特別首脳会議を通じ、更に両国の友好関係を強化していくことで意見が一致(注:明年は国交樹立20周年)。
- ポルキア国王より、テロはイスラムの教義からかけ離れている旨説明。テロを容認しないことにつき確認。

二国間首脳会談の概要

その3

(8) フィリピン(11日)

- テロ、海賊対策として、海上安全分野における協力の重要性について意見が一致。
- ミンダナオ支援を含む日本からの支援を評価している旨発言あり、東ASEAN成長地域(BIMP EAGA)支援に期待が示された。
- 総理よりアグノ川統合灌漑事業(約153億円)への借款供与を表明。

(9) ラオス(12日)

- 外相間で技術協力協定に署名。ラオス側より、日本の経済協力への謝意と引き続いての支援に期待を表明。
- 総理より、次期ASEAN議長国としてのラオスの尽力に期待を表明した。

(10) ミャンマー(12日)

- 同国の民主化問題に関し、首脳間で十分に意見交換を行なった。
- キン・ニユン首相より、国民各層から参加を得た形で民主化プロセスを進展させるよう精一杯努力している旨説明。総理より、国際社会と協力する形で民主化が進展し、日本が協力できる環境が整えられることを期待している旨述べた。
- 外相会談では、キン・ニユン首相がスー・チー女史と個人的にコンタクトしている旨説明あった。

発出文書

< 日ASEAN関係 >

- 新千年期における躍動的で永続的な日本とASEANのパートナーシップのための東京宣言(「日ASEAN東京宣言」)
- 日ASEAN行動計画
- 東南アジア友好協力条約への日本国による加入に関する宣言
- 東南アジア友好協力条約への日本国による加入についての同意に関する宣言

< 経済連携 >

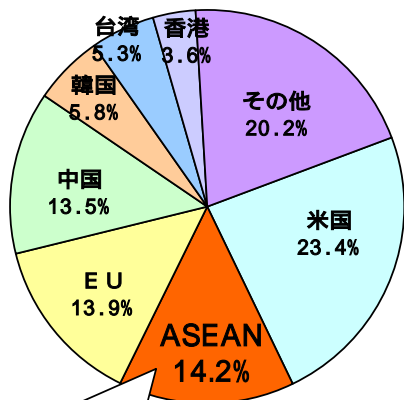
- 日タイ経済連携協定タスクフォース報告書及び交渉開始共同発表
- 日フィリピン合同調整チーム報告書及び交渉開始共同発表
- 日マレーシア産学官共同研究報告書及び交渉開始共同発表
- 日シンガポール経済連携協定閣僚級レビュー会合共同声明

< その他 >

- 日インドネシア・パートナーシップ・プログラム
- 日ベトナム共同イニシアティブ最終報告書
- 日タイ・パートナーシップ・プログラム(フェーズ)
- 日ラオス技術協力協定

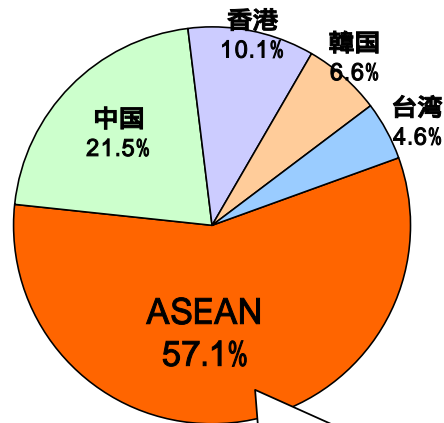
統計で見る日本にとってのASEAN

貿易



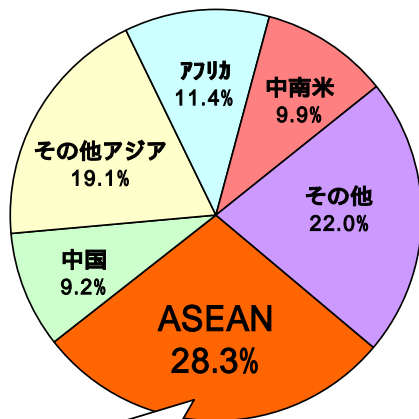
日本にとりASEANは米国に次ぐ貿易パートナー(2002年実績)
対世界貿易額:94.3兆円 対ASEAN:13.4兆円

投資



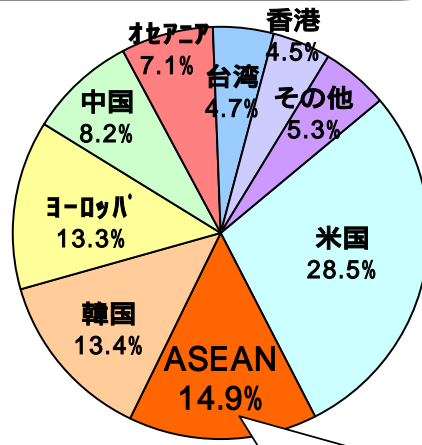
日本にとりASEANは東アジア地域で最大の投資先(1995-2001年度累計)
対東アジア累計:6兆8,435億円 うちASEAN:3兆9,093億円

経済協力



日本にとりASEANは重点支援地域(2001年実績)
日本のODA総額:75億米ドル うちASEAN:21億米ドル

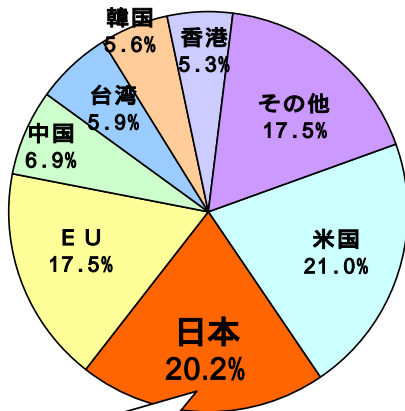
旅行者数



日本人にとりASEANは主要な旅行先(2000年実績)
旅行者数:1782万人 うちASEAN:265万人

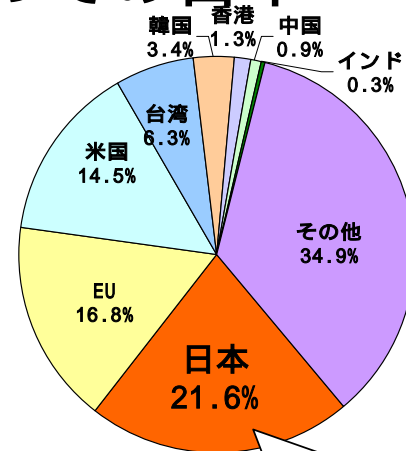
統計で見るASEANにとっての日本

貿易



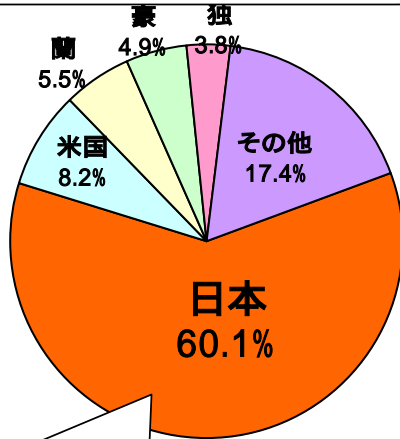
ASEANにとり日本は米国と並ぶ最大の貿易パートナー(2001年実績)
対域外国合計:5,619億米ドル 対日貿易額:1,133億米ドル

投資



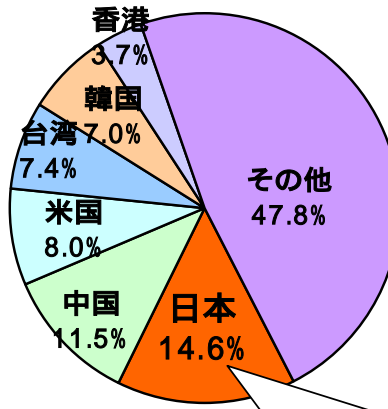
ASEANにとり日本は最大の域外投資国(1995-2001年累計)
域外国投資累計:2,295億米ドル うち日本:495億米ドル

経済協力



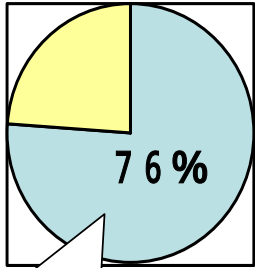
ASEANにとり日本は最大のODA供与国(2001年実績)
DAC諸国ODA総額:35億米ドル うち日本:21億米ドル

旅行者数

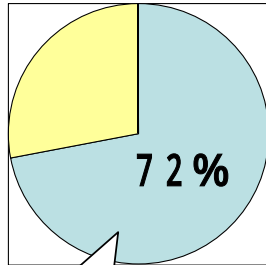


ASEANにとり日本は最大の域外旅行者数(2002年実績)
域外への旅行者数2,521万人 うち日本368万人

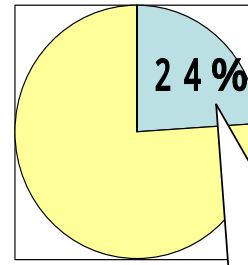
身近なASEAN



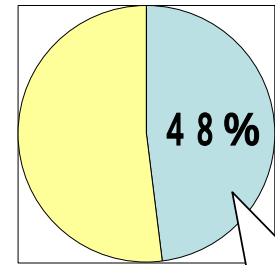
コードレスフォンの
76%がASEAN製



VCRの72%
がASEAN製



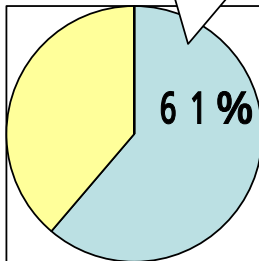
コンピューターの
24%がASEAN製



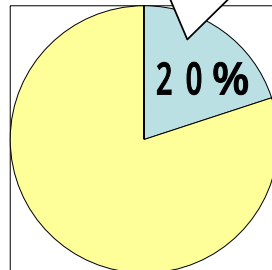
テレビの48%が
ASEAN製

日本に輸入される製品のうちASEAN製が占める割合

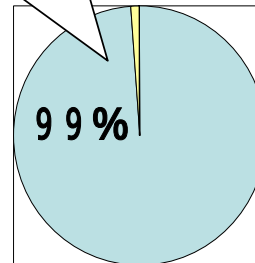
カーステレオの61%
がASEAN製



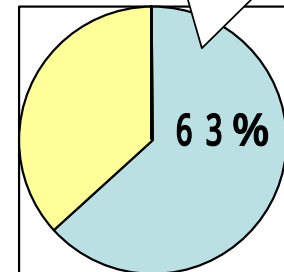
フルーツの20%
がASEAN産



天然ゴムの99%
がASEAN産

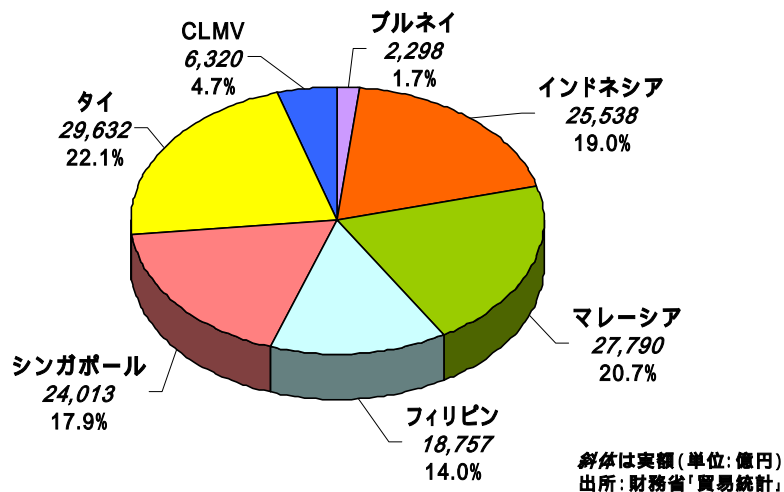


LNGの63%が
ASEAN産

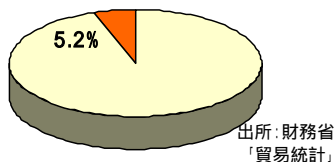


日ASEAN貿易額に対する割合

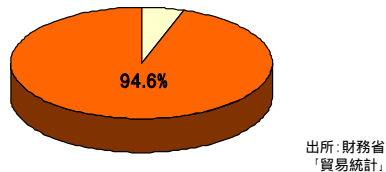
日本の対ASEAN各国貿易額(2002年)
【対ASEAN貿易総額:13兆4,348億円】



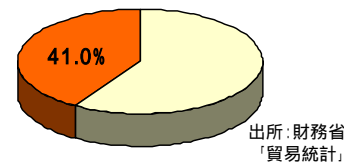
日メキシコ貿易額(2002年)
【総額:2,251億円】



日中貿易額(2002年)
【総額:12兆7,076億円】



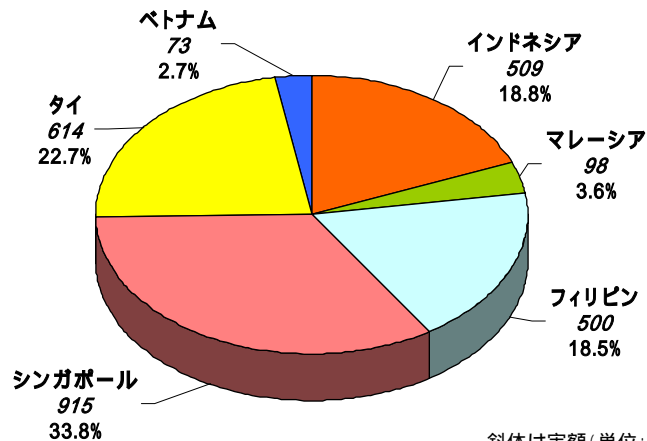
日韓貿易額(2002年)
【総額:5兆5,092億】



日ASEAN直接投資額に対する割合

日本の対ASEAN各国直接投資額(2002年度)

【対ASEAN直接投資総額:2,709億円】

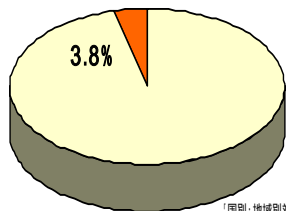


斜体は実額(単位:億円)

出所:財務省「国別・地域別対外直接投資実績」

日本の対メキシコ直接投資額(2002年度)

【総額:103億円】

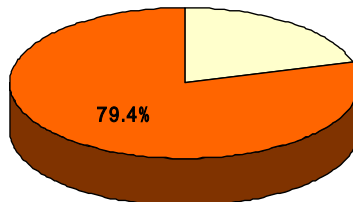


出所:財務省

「国別・地域別対外直接投資実績」

日本の対中国直接投資額(2002年度)

【総額:2,152億円】

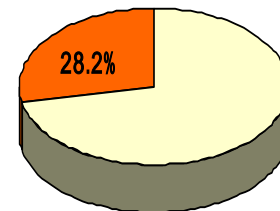


出所:財務省

「国別・地域別対外直接投資実績」

日本の対韓国直接投資額(2002年度)

【総額:763億円】



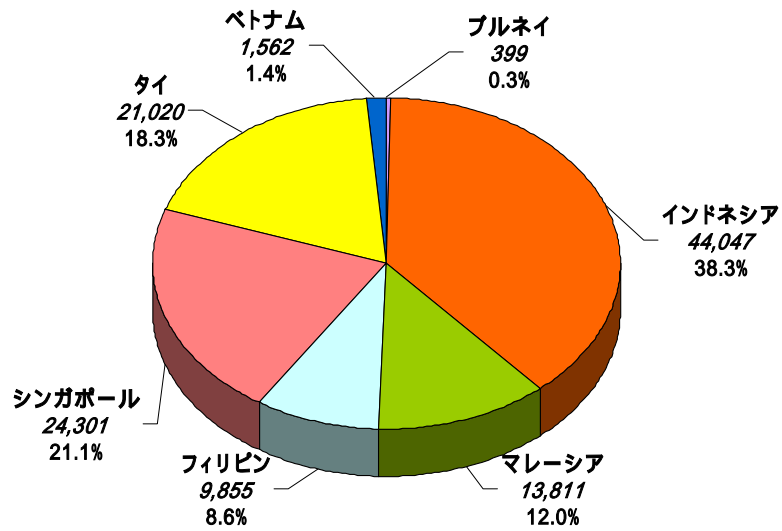
出所:財務省

「国別・地域別対外直接投資実績」

日本の対ASEAN直接投資(累計)

【ASEAN全体:11兆5,082億円】

(1951-2002年度)



注: 額が微小なため、グラフからはカンボジア・ラオス・ミャンマーを除外した。

斜体は実額(単位:億円)
出所:財務省